

研究推進委員会通信

令和元年9月2日

8月22日に実施された「白鳥地域 小中高合同教科部会」に多くの先生が参加してくださいました。

参加された先生には「白鳥中学校が取り組んでいる研究主題を本校でどのように取り入れていくか」という視点をもって臨んでもらいました。本校の過半数は白鳥中学校の卒業生です。このことから、白鳥中学校で何を大切に指導しているかを知ることは生徒の学びやすさや学力向上につながることを期待されます。



白鳥地域の小・中学校の先生が一堂に集います



各教科に分かれて実践交流をしました

参加された先生のコメント

- ・ 学びの地図で単元の流れを明示し、生徒も学びやすいと思った。
- ・ 学びの地図という単元の見通しを生徒に伝えていた。1つの授業内の流れは意識をしたことがあったが、単元の流れを意識したことはなかったので今後は授業をつくりあげていきたい。
- ・ 小学校～高等学校までの身に付けたい力を一覧にし、現在（中学校段階）でどの力を付けようとしているのか視覚化しているのがとても良いと思った。

※高校段階でも中学校までの学びの接続を意識してみてもはどうでしょう。

- ・ 「切磋琢磨」と「試行錯誤」を生み出すためにチャレンジタイムや小集団活動を位置付ける。
- ・ 本校でも時には難問に挑戦する時間を作ってみても生徒は試行錯誤して取り組むかもしれない。
- ・ 見通しを立てたり、振り返ることを大切にしたりしたい。
- ・ 見通しやゴールを明確にして、生徒とともに授業をつくりあげる。
- ・ 生徒に一度立ち止まって考えさせる時間を与えたい。
- ・ 板書を事前に計画してから授業にのぞんでいた。 ※若手の先生、板書計画を立てていますか？
- ・ 各単元の中で最も身に付けさせたい力は何か焦点を絞り、欲張りすぎないことが大切。

※学習指導要領の解説を読んでもみるとよいかも。小・中学校の先生は読み込んでいます。

白鳥中学校は11月に3年間の研究の成果を発表します。特にこの2年間は「中心となる授業」「チャレンジタイム」というキーワードをもとに、生徒と協働的に授業をつくることを大切にしています（いわば佐藤学先生の「学びの共同体」）。郡上北高校の研究推進委員会も3年目になり、授業改善を実施していく中で「中高のつながりを大切にする」という方向性が見えてきたと思います。この方向性の成果は、生徒を対象にした外部アンケートにおける学習指導の面で肯定的な意見の割合の上昇に表れていると思います。

9月19日（木曜日）の授業研究会では、中学校での学び方を高等学校においてどのようにつなぐかという授業を実施します。私たちは、教育の専門家です。岐阜大学教職大学院の先生からもご助言いただきながら、研鑽をつめたらと思います。そのためにも、ぜひ多くの先生に参加していただきたいと思います。